

令和6年度 自己点検・自己評価について

国立病院機構岡山医療センター
附属岡山看護助産学校

1. 自己点検・自己評価の概要

- 1) 全国国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会中国四国支部が作成した「自己評価書」を用いて、教職員が評価する。
- 2) 自己点検・自己評価の結果を分析することで改善点を明確化し、具体的な計画を立案して取り組む。

2. 評価内容・方法

- 1) 評価表 : 8 領域、127 の評価項目
- 2) 評価基準 : 4 段階評定

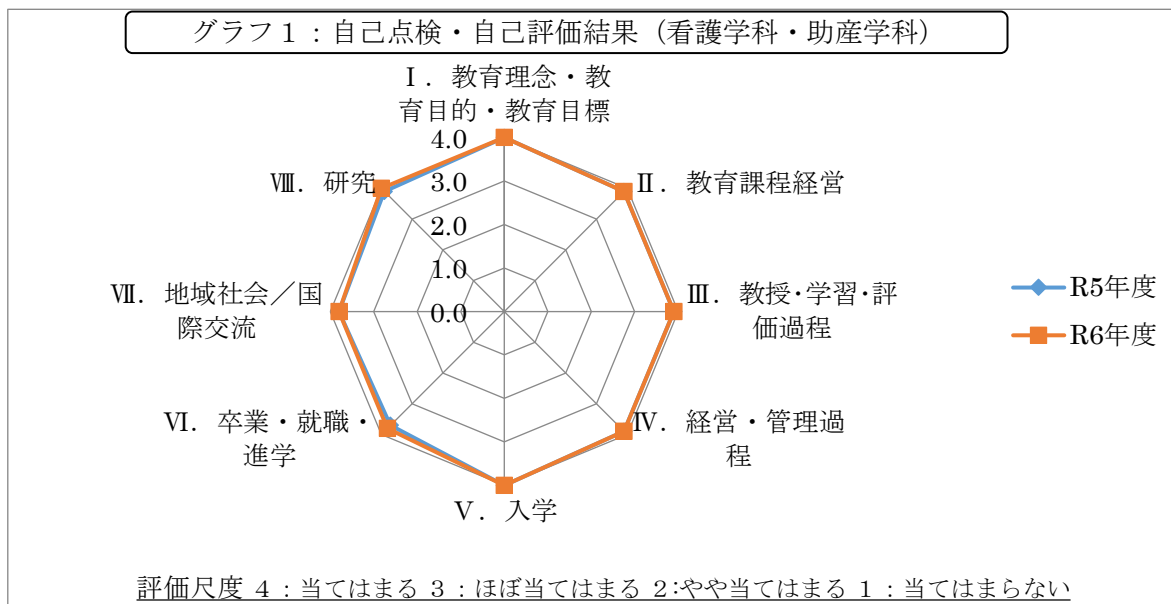
〈4. 当てはまる〉 〈3. ほぼ当てはまる〉 〈2. やや当てはまる〉 〈1. 当てはまらない〉

3. 評価結果

全 127 項目の評価は、4 点が 120 項目、3 点台が 7 項目であり、全体平均点は 3.9 点で、昨年度と同点であった。評価点が上昇した項目は、「Ⅵ. 卒業・就職・進学」「Ⅷ. 研究」であり、低下した項目は無かった。

表 1 領域別評価結果

評価内容（領域）	年度別平均点	R5 年度	R6 年度
I. 教育理念・教育目的・教育目標（法との整合性 教育の特徴の明示）		4.0	4.0
II. 教育課程経営（教育課程編成の考え方 教育計画・評価）		3.9	3.9
III. 教授・学習・評価過程（授業展開過程 学習支援）		3.9	3.9
IV. 経営・管理過程（指針 組織体制 施設設備 学生生活支援）		3.9	3.9
V. 入学（入学選抜の考え方・妥当性）		4.0	4.0
VI. 卒業・就職・進学 （就職・進学状況 国家試験合格状況卒業後の学生の状況把握）		3.7	3.8
VII. 地域社会／国際交流（地域との連携 国際的視野 留学生受け入れ）		3.8	3.8
VIII. 研究（研究活動の保障 研究成果発表）		3.9	4.0
平 均		3.9	3.9



【機密性 2】

4. 各領域の結果と今後の課題

I. 教育理念・教育目的・教育目標（法との整合性 教育の特徴の明示）

学生便覧に教育理念・教育目的・教育方針（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）・教育目標を明記し、毎年度4月に学生および教職員へ配布し周知している。

講義要綱（シラバス）、実習要綱、実習指導要綱には、教育理念・教育目的・教育目標を明記し、学生・教職員が同じ認識のもと教育実践に努めている。

【課題】

1. 教育理念に基づく教育目的・教育目標を達成できるよう教育活動を継続して実践し、評価する。

II. 教育課程経営（教育課程編成の考え方 教育計画・評価）

教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて、プロジェクト会議や教員会議等の機会を通して一貫した教育活動を行っている。

教員の教育・研究活動の充実については、年度初めに教員研究助成金計画を立案しており、その際に研修や学会に参加することを推奨している。また、令和6年度は教員研修Ⅱへ8名の教員が参加できるよう調整し、看護教員能力開発プログラム（TNAD）を活用して各教員のキャリア形成を促している。さらに、令和5年度と令和6年度は看護管理実務研修（5日間研修）へ教員2名ずつ参加して、自己の教育実践活動を再考し今後取り組むべき課題を見出せるよう努めている。相互研鑽システムは、学年業務ペアを導入しており、研修に参加しやすい組織、チーム作りができています。また、教員研究会や各プロジェクト会議を通して他の教員と意見交換を行うことは、教員が相互に成長できる機会に繋がっていると考える。ただし、業務時間内で授業準備のための時間が十分に確保できていない現状がある。教員間での業務差もあり、職員で協力していけるような体制が必要と考えている。

【課題】

1. 看護教員能力開発プログラム（TNAD）を活用して各教員のキャリア形成を促す。
2. 教員間で協力できる環境の提供や体制を検討する。

III. 教授・学習・評価過程（授業展開過程 学習支援）

【看護学科】

科目の授業内容を整理しマトリックス作成をし、各授業内の重複や整合性を可視化している。しかし、新カリキュラム後の見直し、検討が必要である。1科目の担当者が複数となっている科目については、学習内容が科目としての一貫性を保てるよう、講師と連携や調整を図っている。

国家試験対策については、全教員のチューター制で、学生の成績や学習状況を把握しながら、各学科内で検討を重ねて計画的に実施している。国家試験結果の分析を行い、次年度の対策にいかしている。

技術試験や基礎看護技術の演習補助は年間計画を組み全教員で評価にあたり、教員間の協力体制は明確にしてはいるが、実習引率や講義により計画通りにならないこともあり、その都度、再調整を行いながら対応している。

目標達成の評価とフィードバックについては、講師会議、実習指導者会議では評価結果を検討し、次年度の課題を報告している。学生による授業評価アンケート、カリキュラム評価を行っており、多面的な科目の達成状況を把握していると考えます。実習評価については、ルーブリック評価を導入し、具体的な評価規準を示すことで、評価者と学生両者が達成状況を把握できるようになったと考えます。

令和6年度は、院内医師から専門書を30冊程度寄贈いただいた。図書館の利用率が低いと、動機づけや新刊図書の提示方法など、学生の興味関心を引くかわりが課題である。現在、母体病院と共に学術雑誌のオンライン化の導入に向けた契約を検討している。

【課題】

1. 技術試験と講義補助の計画的な運用と、講義補助を行う上での留意点を検討・共有する場を設ける。
2. 専門性の高い文献も活用できる環境となるよう、学術雑誌の電子書籍を学生が使用できる環境を整える。

【助産学科】

新カリキュラム編成時に、科目内容のマトリックスを作成している。分娩期の実践能力については、卒業前だけでなく9月の講義時期に「分娩介助中間OSCE」を実施し、後半の実習につなげている。昨年度においては、報告・連絡・相談の達成状況が例年より低下していたため、強化する演習を取り入れた。また、対象へのケア面の強化として「フットケア」の特別講義を継続して計画している。

教員間の協力体制では、学生への連絡や指導内容、実習指導状況は、教員専用 Gmail や Google Classroom など ICT を活用することで、遠隔地の実習引率で連絡が取りにくい場合でも、学生の学習状況のに関する情報共有と協力体制を図れるように取り組んでいる。今後は、学生のレディネスに合った、遠隔地での実習において学習がよりスムーズに行えるよう e-テキストの導入を検討していく。

教育評価は授業評価、実習評価、卒業時の到達度評価など多様な側面から目標到達状況を把握している。また、学科全体で実施した教育実践に関しては、各々の目的に応じた評価表を用いて評価し、学生の形成的評価の指標とし、さらに主担当者を中心に教育実践の総括を行い、次年度の課題の明確化に取り組んでいる。特に分娩期の評価表においては、当校だけでなく助産学科を有する NH0 岡山・京都・仙台3校で見直しを行っている。また、昨年度から NH03 校で協同し、国家試験対策のオンデマンドの動画や授業資料を作成、共有化を行っている。

学習への動機づけとして、修業年限1年であるため「入学前学習のお知らせ」により入学前から学習の動機づけを行い、入学時オリエンテーションでシラバスの活用方法について説明し、学習における参考文献も提示している。

【課題】

1. 入学生のレディネスを反映させ、スムーズな学習支援、学生の移動時の負担感の軽減を図れるように e-テキスト導入を検討する。

IV. 経営・管理過程（指針 組織体制 施設設備 学生生活支援）

教職員の財政についての意見の反映ができる機会は、学校運営会議や教員会議等で設けられており、母体病院の人材確保対策プロジェクトに参加するなど、組織的な経営に参画している。

防災マニュアルを見直し、防災避難訓練の振り返りや今後起こる得る災害に備えた。

学習・教育環境の施設・整備については、経年劣化がみられるが、適宜、修理・修繕・新規購入しており、計画的かつ学生の学習環境に支障をきたさないように実施できている。感染症法上 COVID-19 の5類移行後は、母体病院の感染防止対策や感染情報を鑑みて、段階的に学校内感染対策を見直している。第4期 HOSP-net 移行に伴い情報系端末と授業用 PC 端末の運用方法を整理し、個人情報保護・個人情報の流出防止のため、セキュリティ対策を強化・徹底している。

広報活動としては、学校ホームページの QR コード貼付し簡便に学校情報にアクセスできるように工夫し、ホームページを定期的に更新し、学校説明会・オープンスクール・学生祭などにおいて学生や教職員、地域と交流を行っており、内容も社会的説明責任を果たすものとなっている。母体病院の人材確保プロジェクトで、学校のブランディング化を図るため学生から学校のキャッチフレーズを募った。今後、オープンスクールやホームページなどで PR していく。

【課題】

1. 学生確保に向けた広報活動に取り組む。
2. 教員一人ひとりが、日々の業務の中で経営参画に関する具体的目標を設定し取り組む。

V. 入学（入学選抜の考え方・妥当性）

入学試験は社会的背景や入学後の成績の推移を踏まえて募集活動や入学者選抜の要項を検討しており、入学応募者開拓への取り組みと現状を評価している。看護学科は、高校訪問を山陰・愛媛に地域を広げて入学試験の変更事項をお知らせし、受験応募者の増加を目指して活動している。

学校説明会は高校教諭の希望に応じ、来校型とオンライン型のハイブリットで開催した。オープンスクールでは、公開講座や技術経験、学生との交流会、進路説明会等を行っている。また、母体病院のプ

【機密性 2】

チ相談会やNH0 就職説明会を病院と連携し行っている。アンケート結果では、わかりやすく丁寧な説明が高評価につながっており、「受験をする・させたい」と答えた高校生やその家族が70%、「検討している」30%であった。今後も受験応募者数の増加につながるよう創意工夫し取り組みたい。

【課題】

1. 入学者開拓のための広報活動取り組みを強化する。

VI. 卒業・就職・進学（就職・進学状況 国家試験合格状況卒業後の学生の状況把握）

今年度もホームカミングデーを実施し、卒業生の就職後の意見を聴く機会を持つことができた。短時間ではあったが、卒業後の状況を把握することができた。参加できない学生についてはクラスルームを活用し、現状把握できるようにした。また、在学中のGoogle Classroomを卒後1年間は残し、卒業生へのお知らせややりとりができるようなプラットフォームとしての活用を行っている。卒業生の就職先のNH0や実習施設とは、実習指導者会議や実習引率時など情報交換できる体制がある。実習施設以外に就職した卒業生については、看護職員募集活動で病院職員が来校された場合に情報交換している。

【課題】

1. 卒業生に対するホームカミングデーを継続する。

VII. 地域社会／国際交流（地域との連携 国際的視野 留学生受け入れ）

学校ホームページ、病院広報誌ジャーナルなどに掲載するために、年度初めに年間計画を立案し計画的に原稿依頼・掲載情報を更新している。また、岡山県や中国四国グループ主催の各種研修の講師派遣に積極的に協力している。看護教員インターンシップは実習校としても協力しており、独自で助産学科インターンシップも令和5年から開催している。学生のボランティア活動では、献血ボランティアは日赤献血センター担当者と連携して通年活動できるよう調整し、延べ約80名の在校生が献血に協力している。特に看護学科では、「生活を支える看護Ⅰ」によるフィールドワークで、地域性やその地域に住む住民の状況を理解することや地域住民との交流を図ることにつながっている。また、「災害看護と国際看護」を新カリ新設科目として設定しており、実際に国際看護を実践された講師が行う講義によって、よりリアリティのある学びにつながったと推察される。留学や海外において看護職に就くこと等を希望する卒業生が毎年若干名おり、希望者に対して、英文による証明書を発行するなど対応している。

【課題】

1. ボランティア活動を継続する。

VIII. 研究（研究活動の保障 研究成果発表）

教員の研究活動を保障できる体制として、NH0 教員研究助成金の活用、教員研究会開催のための副学長・教育主事協議会からの支援、教員研究会の勤務時間内の開催協力が得られている。勤務時間内で教員研究会に出席できているが、研究活動そのものを行う時間を勤務時間内に十分にはとれていない。NH0 看護教員助成金を活用して、看護教育の質の向上に繋がる研修・学会等に主体的に参加している。

当校には学校研究倫理委員会が設置されており、外部委員を含む委員会により審査を実施しており、研究活動に取り組みやすい。学会発表時のスライドやポスターは、その後学内で掲示して学生や教職員にも見てもらえる機会としている。中国四国地区看護研究学会や国立病院総合医学会など、前年度は学会発表4題と論文投稿2題、今年度は研究学会発表6題と論文投稿3題に取り組んだ。教員が積極的に研究活動に取り組む環境ができてつつある。

【課題】

1. 今年度の倫理審査委員会で承認された研究に取り組み、学会発表や学会誌に投稿する。